

Events

第1回 分離プロセス基礎講座 固液分離工学 基礎と応用

主催 化学工学会分離プロセス部会
共催 化学工学会東海支部、グローバルテクノロジー委員会、分離技術会、世界濾過工学会日本会、東海化学工業会、粉体工学会、日本水環境学会

本講座では、凝集操作・沈降分離・濾過・圧搾脱水・遠心分離を中心とした固液分離の理論とそのプロセス設計法について、化学工学を専門として学んでいない方にも理解できるよう基礎的事項に重点を置き、演習問題を織り混ぜながら平易に解説します。技術者のリフレッシュ教育、新入社員教育等にお役立て下さい。

日時 5月21日(金) 9:30~16:40
場所 名古屋市工業研究所第2会議室(4F)(名古屋市熱田区六番三丁目4番41号)地下鉄名城線「六番町」駅下車

- 講座の内容
1. 固液分離の前処理・後処理
 - a) 沈降・浮上操作, 凝集操作 (9:30~10:30)
(名古屋大学) 向井康人氏
 - b) 圧搾脱水, その他の後処理 (10:50~11:50)
(鈴鹿高専) 岩田政司氏
 2. ろ過操作 (12:50~14:20)
(名古屋大学) 入谷英司氏

第1回 分離プロセス部会講演見学会

主催 化学工学会分離プロセス部会
協賛 化学工学会九州支部、日本吸着学会

工業生産あるいは研究の現場における設備の見学会とそれに関連する技術の最新の話題を解説いただく講演見学会を開催します。今回は吸着分離の第一線で活躍されている3名の講師をお招きし、関連の話題を紹介いただきますとともに、三菱重工業株式会社のご協力のもと、気相吸着関連設備の見学会を実施いたします。

日時 7月24日(土) 13:30~17:00
場所 【講演会】長崎大学 総合教育研究棟2階多目的ホール
(長崎市文教町1-14)
【見学会】三菱重工業株式会社長崎研究所丸尾町実験場

- プログラム
- 挨拶 (13:00~13:10)
講演会
1. 学術としての吸着工学の進展 (13:10~14:00)
(熊本大学) 広瀬 勉氏
 2. 火力発電所からのCO2除去システムの最適化研究 (14:00~14:50)
(九州大学) 峯元雅樹氏
 3. 一般産業におけるガス分離 (14:50~15:40)
(産業創造研究所・三菱重工業) 泉 順氏
- 見学会会場へ移動(本会でバスを準備いたします) -

分離プロセス部会では、今後も「産学交流会」(9月)「最新技術講座」(10月)をはじめ、様々な企画を用意しています。最新情報は部会のホームページにアクセスしてください。

<http://envchem.iis.u-tokyo.ac.jp/separation/>

3. 遠心分離(沈降・ろ過・脱水)(14:40~16:10)
(三菱化工機) 河端敏夫氏
4. 固液分離装置の選定(16:10~16:40)
(三菱化工機) 河端敏夫氏

定員 100名(定員になり次第締め切ります)

参加費(テキスト代・消費税を含む)
正会員(共催団体を含む) 15,000円
法人会員会社社員 20,000円
学生会員 5,000円
会員外 30,000円

申し込み方法
1. 氏名, 2. 会員資格, 3. 勤務先, 4. 連絡先住所, 5. TEL or FAX 番号, e-mail アドレスを記入の上, 下記まで(e-mail, FAX または郵送にて)お申し込みください。

申し込み先(問い合わせ先)
〒510-0294 鈴鹿市白子町 鈴鹿高専 生物応用化学科 岩田政司
iwata@chem.suzuka-ct.ac.jp, TEL0593-68-1861, FAX0593-87-0338

送金方法:
郵便振替 口座番号 00840-8-203293 口座名「固液分離分科会」

見学会「気相吸着関連設備」(16:10~17:00)
三菱重工業株式会社長崎研究所丸尾町実験場
・ 懇親会 (17:30~19:30)

定員 40名 定員に達したら締め切らせていただきます

参加費(消費税を含む)
化学工学会会員 7,000円
分離プロセス部会個人特別会員(当日部会入会可) 7,000円
学生会員 3,000円
非会員 12,000円
懇親会 5,000円
当日会場にて申し受けます。
なお、当日のキャンセルは参加費を請求させていただきます。

申し込み方法
1. 氏名, 2. 会員資格, 3. 勤務先, 4. 連絡先住所、TEL、FAX、E-mail、5. 懇親会参加の有無を記入の上、下記まで FAX あるいは E-mail にてお申込ください。

申し込み先・問い合わせ先
〒599-8531 大阪府堺市学園町1-1
大阪府立大学大学院工学研究科 吉田弘之
TEL&FAX: 072-254-9298 E-mail: yoshida@chemeng.osakafu-u.ac.jp

入会案内

化学工学会分離プロセス部会では、皆様の入会をお待ちしています。

化学工学会の個人会員(正会員、学生会員、永年会員、名誉会員)はオンラインで申込が可能です。化学工学会ホームページ(<http://www.scej.org/>)の部会入会のページからお手続き下さい。

法人、化学工学会非会員は分離プロセス部会事務局までお問い合わせ下さい。

化学工学会分離プロセス部会

事務局
東京大学 大学院 工学研究科
化学システム工学専攻 中尾研究室内
〒113-8656 東京都文京区本郷7-3-1
TEL: 03-5841-7326 FAX: 03-5689-7351

ホームページ・ニュースレター委員会
委員長 望月 和博 (東京大学)
委員 辻 智也 (日本大学)
野村 幹弘 (東京大学)
向井 康人 (名古屋大学)

編集・発行
化学工学会 分離プロセス部会
ホームページ・ニュースレター委員会

分離プロセス部会 ニュースレター

No. 1
2004.4

Greeting

分離プロセス部会の目指すもの

分離プロセス部会長 中尾真一



分離プロセス部会が発足し、早くも一年が過ぎました。これまで分離技術ごとのソサエティで活動してきた皆さんが、分科会と名を変え一堂に会したからといって、急に連携し、団結して活発な活動ができるわけではないと考えていました。確かに分科会ごとにその運営方法も大きく異なります。

そもそも競合関係にあった(あったと思われていた?)分離技術同士が、部会になったからといって、そう簡単に一致団結するはずありません。しかし、そのような状況の中でも、この一年でお互いの理解が進み、「様子見」から「一緒にやれそうなこと」が見えるところまで来たのではないのでしょうか。少なくとも各分科会を代表する幹事の皆さんは、はじめの競合関係(?)から「うん、そんな悪い人ではないな。これなら仲良くやっていけそうだな。」という関係に進化しました。これは大きな一歩です。

本来、同じ分離対象に対しても、各分離技術はそうそう競合するものではないはずですが、むしろシステム全体を最適化するためには、お互いを補完する関係であるはずですが、これまでは各分離技術の枠の中に閉じこもって、なかなかこのような対応がとれなくなっていたのではないのでしょうか。例えば小生は膜が専門ですが、そうすると「何でも膜で分離しよう、蒸留、吸着、とんでもない膜が一番」とだんだん考えるようになりがちでした。しかし本当は、「まず蒸留でここまで濃縮し、そのあと膜を通して、こっちの仕上げはやっぱり吸着が一番だな」というふうに適材適所に配置することでシステムは最適化されるはずですが。

分離プロセス部会が目指すところは、分離操作に関連する技術者、研究者の方々が、各分離技術の長所、短所を正しく(ここが大切です!)理解し、システムの最適化を行えるような基盤を整えることではないでしょうか。

そのためには、各分離技術を横並びに正しく理解できる講演会や講習会を企画することも大切です。昨年度は発足記念講演会を一回だけ開催するにとどまりましたが、本年度からはもっとたくさんの企画が動き出します。秋季大会時のシンポジウムも分科会ごとに開催するのではなく、二つ三つの分科会が一緒になって、例えば同一の分離系に対して各分離技術がどのように貢献できるかを議論するような企画ができればと考えています。さらに、化学工学を学んだ技術者が平均的に身に着けているべき分離技術の知識を示すものとして、部会編集の教科書の発行も企画しています。

部会の運営は、会員諸氏の意見の集約としてなされるべきであります。幹事会もいろいろ知恵を絞っていますが、皆様からのご要望をどしどし出していただき、今後の運営に反映させていきたいと考えています。ご協力をお願いいたします。

Division of Separation Processes, SCEJ

Information

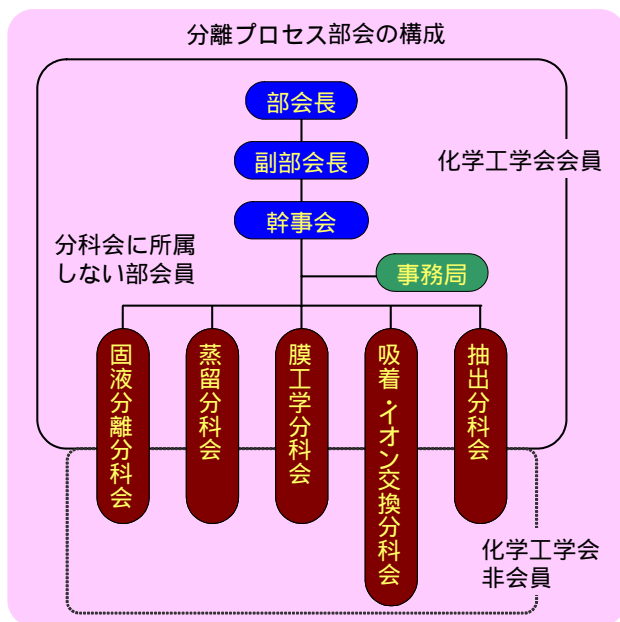
部会の目的・事業内容・構成について

本会は(社)化学工学会の部会規定により設置され、「分離プロセス部会」と称します(英文名: Division of Separation Processes)。化学工学会の分離工学に係わる専門分野の代表機関として、分離プロセス技術の研究、開発および分離単位操作間の連携を図り、産官学間の交流や海外への分離プロセス技術の発信を通じて、学術および技術の向上を促進することを目的に、次の事業を行います。

- 1) 分離工学に関わる諸技術の開発
- 2) 分離プロセス技術の情報発信
- 3) 分離プロセス技術の標準教科書の出版
- 4) 分離プロセス技術教育の標準カリキュラムの作成
- 5) 講演会、講習会、見学会の開催
- 6) 国際会議、化学工学シンポジウムの開催と支援
- 7) その他、本会の目的の達成に必要な事業

また、本会は目的を達成するため、研究対象をもとに組織される分科会や部会全体の横断的な活動を推進するワーキンググループを設置して活動を行います。

(分離プロセス部会規約より)



分科会

膜工学分科会、固液分離分科会、蒸留分科会、吸着・イオン交換分科会、抽出分科会

委員会・ワーキンググループ

企画委員会、ホームページ作成WG(ホームページ・ニュースレター委員会へ移行)、教科書・カリキュラムWG、ホームページ・ニュースレター委員会

部会役員・幹事

部長 中尾真一(東大)
副部長 入谷英司(名大) 小菅人慈(東工大) 吉田弘之(阪府大)
幹事 松山秀人(京都工繊大) 谷口雅英(東レ) 岩田政司(鈴鹿高専) 中倉英雄(山口大) 森秀樹(名工大) 中岩勝(産総研) 迫田章義(東大) 望月和博(東大) 後藤雅宏(九大)
監事 鈴木功(日大) 渡辺幸平(旭化成)

Schedule

平成 16 年度活動計画

	部会行事	分科会行事
3月		蒸留フォーラム 2004 (3/19: 日本大学理工学部)[蒸留]
4月	化学工学会第 69 年会 (4/2-4: 大阪府立大) 分離プロセス部会第 2 回総会	固液分離分科会総会 [固液] 蒸留分科会 WG 総会 [蒸留] 第 9 回世界濾過会議 (4/18-22: USA)[固液]
5月	第 1 回分離プロセス基礎講座 - 固液分離 - (5/21: 名古屋)	
6月		
7月	第 1 回分離プロセス部会講演見学会 (7/24: 長崎大)	膜工学分科会関東支部ミニシンポジウム [膜]
8月		
9月	第 1 回産学交流会	
10月	APCChE 2004 アジア太平洋化学工学会議 (10/17-20: 北九州) 分離プロセスシンポジウム 第 1 回分離プロセス最新技術講座 (10/26-27: 早稲田大)	膜工学分科会東海支部ミニシンポジウム [膜] 固液分離分科会総会 [固液] 蒸留分科会 WG 報告会 [蒸留]
11月		化学工学論文集特集号「粒子・流体系分離工学の展開」刊行 [固液] 第 23 回溶媒抽出討論会 (11/14-16)[抽出]
12月		膜工学分科会九州支部ミニシンポジウム [膜]
1月		
2月		

Reports

平成 15 年度活動内容 (平成 15 年 3 月 ~ 平成 16 年 2 月)

- 3月 23日 分離プロセス部会発足式・第 1 回総会 於東京大学(化学工学会 68 年会) 参加者 58 名
部会発足の経緯の説明、組織・幹事・規約の承認、活動内容および予算の説明を行った。
- 7月 25日 分離プロセス部会発足記念シンポジウム 下記の報告参照
- 9月 12~14日 化学工学会秋季大会シンポジウム 於東北大学(化学工学会第 36 回秋季大会) 本部会は 4 シンポジウムを企画 発表件数 113 件
蒸留およびその関連技術の高度化と融合を目指して
マイクロ/ナノ細孔を有する分離膜の展開
粒子・流体系分離技術の精密化への展開
分離プロセス部会シンポジウム

分離プロセス部会発足記念シンポジウム 報告

日時 2003 年 7 月 25 日
場所 明治大学

分離プロセス部会の発足記念シンポジウムが、2003 年 7 月 25 日、明治大学駿河台キャンパスで行われました。参加者は、68 名でした。当日は中尾会長の挨拶に始まり、蒸留、固液分離、吸着・イオン交換、抽出および膜の 5 つの分科会を代表する講演者から以下のような発表がありました。

1. 蒸留工学研究の現状と今後の発展 (東京工業大学) 小菅人慈氏
2. 高度な粒子・流体系分離プロセスへの展開 (名古屋大学) 入谷英司氏
3. 循環型社会の構築と吸着分離 (大阪府立大学) 吉田弘之氏
4. 抽出分離と計算機化学 (北九州市立大学) 吉塚和治氏
5. 膜分離工学研究の新しい展開と実用技術の現状 (東京大学) 中尾真一氏

いずれの発表においても、それぞれの分離技術の最新の研究成果ならびに状況が報告されました。講演会終了後は、今後の分離部会の活動について議論がなされました。

また、懇親会においても多数の参加者があり、明治大学ご自慢の 23 階リパティタワーのサロンより、東京の夜景を眺めながら、分離部会の将来に関して活発な意見交換が行われました。

本分離プロセス部会の発足は、化学工学会における部会制の横系となる基盤部会の設立要請を受けて本年 1 月に実現しました。分離プロセスは、反応工学とならんで基盤技術の核となる重要な研究分野として位置付けられています。化学工学会の従来の特別研究会および研究会を概観してみても、いわゆる単位操作に基づく分離操作を共通のキーワードとする分野が多数見られます。このことから、対象が異なるものの、分離という研究手法を共有する研究者・技術者の共同研究あるいは知識の共有の場として本分離プロセス部会が発足しました。

部会設立に際しては、分離プロセスと言ってもそのカバーする分野は非常に広いことから、部会の中に複数の分科会を設けています。そして、単独の分科会あるいは複数の分科会の横断的な協力によって、年会や秋季大会におけるシンポジウムの開催、特定の領域の講演会・講習会の開催、あるいは国際学会の招致等の活動を積極的に推進します。現在、分科会として膜工学分科会、固液分離分科会、蒸留分科会、吸着・イオン交換分科会、抽出分科会の 5 つの分科会が設置されています。

分離プロセス部会は、次世代の分離工学に関する国内外の学術、技術、そして産業の発展に寄与することを目的として設立されました。是非多数の方に入会頂き、既存部会の領域にとどまらない積極的な参加と提言により、活発な部会となることを願っています。

(九州大学 後藤雅宏)

協賛・共催行事

- 15 年 11 月 5・6 日 INCHEM TOKYO 2003 協賛 濾過分離シンポジウム (TIME24 ビル)
 15 年 11 月 26 日 第 1 回「エンジニアのための物性講習会」(東京理科大学)
 15 年 12 月 3 日 第 37 回化学工学の進歩講習会「蒸留工学 - 基礎と応用」(名古屋市立工業研究所)

平成 16 年度活動内容 (平成 16 年 3 月 ~ 平成 16 年 4 月)

- 4月 4日 分離プロセス部会第 2 回総会 於大阪府立大学(化学工学会 69 年会) 参加者 34 名
平成 15 年度部会活動経過報告、平成 16 年度および 17 年度行事予定の説明、平成 15 年度決算および平成 16 年度予算案の説明を行った。

協賛・共催行事

- 16 年 3 月 19 日 蒸留フォーラム 2004 - 困難な分離をブレイク・スルーする - (日本大学理工学部)

分離プロセス部会ホームページ・ニュースレター委員会では、会員の皆様の声を募っております。部会に関すること、ホームページやニュースレターに関することなど、自由なご意見をお寄せくださいましたら幸いです。
 宛先: 化学工学会分離プロセス部会ホームページ・ニュースレター委員会 望月和博
 〒263-0022 千葉県稲毛区弥生町 1-8 東京大学生産技術研究所 FAX: 043-251-1231 e-mail: mochi@iis.u-tokyo.ac.jp